

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第9回地域生活部会議事録

文責：平井（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第9回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和6年6月18日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	小松代 菜央	南雲 好晶	榎 拓巳
	大場 貴弘	池田 栄美	小林 寿江	橋本 朋子
	青山 明子	平井 有希子	広瀬 健次郎	松浦 好美
	区事務局：土岐 齋藤 小西 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認、書類確認 ・部会のスケジュールの確認、前回のご意見カードの報告 ・司会-伊藤部会長 書記-平井委員 <p>(2) 令和5・6年度の活動について 「10年後も住み続けたい大田区へ ～世代を越えて知る機会を～」</p> <p>◎学齢期における情報収集について 4人の委員にスピーカーとして、ご自身の子育ての中で感じたことを話していただく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は障がいが今のように細分化されていなかったため、身体障がいと知的障がいの医療と療育の両方を兼ねている情報は少なく、口コミの情報が大切だった。行政に問い合わせても知りたい情報とずれてしまい、他の親からの情報の方が役にたった。学齢期終了後は、子どもたちの状況もそれぞれで、使いたいサービスも変わってくる。母同士の情報があまり参考にならないと感じることも増えた。 ・知的障がいも分かっていても何をすればいいかわからない状態の中で、知人や保健師さんなどからの口コミの情報は大きかった。行政の情報にたどり着くまでに色々な人からの情報があった。口コミがきっかけとなって情報を知った。自分でも調べていくうえでネットも利用したが紙媒体も利用。病院など、人が集まるところに障害についてのリーフレットを置くだけでも意味があるのではないか。 ・出産後、ICUなど長く入院後、区内の療育機関を紹介され、その時から大田区と繋がってきた。肢体不自由児と分かっていたので、子育て（療育）の道筋ができており、行政からのアドバイスのおりに進めてきた感じだった。困った事はあまりなかった。母同士の雑談が大切。普段の会話から情報を得られていた。放課後等デイサービスで肢体不自由児の受入可能な事業所についても情報は得たが、枠的に空きがなく使うことはできなかった。 ・出産後退院の時には障がいも分かってはいたが、情報がなく、 			

インターネットで検索しても情報があまり得られなかった。
区内の療育機関で初めて親同士の関わりをもつ。医療的ケア児は少数派なのでインターネットでも探しづらく、口コミの情報は大事。

- 目に入る情報が必要。どこにどういった情報を発信していくのか、という検討があってもいいのではないか。
- 欲しい情報が年代によって違う。
- 成人期以降、悩みは個人的かつ深刻になるケースが多いため、口コミは機能しにくくなり相談支援事業所へ相談するケースが増えてくるのではないか。

2 その他

- ・今後の予定

7月「成人期への橋渡しとして」

学校、相談事業所や相談員との関り

9月「社会に出てからの生活について」

10月「8050 と社会課題」

11月「社会課題について」

12月必要があればスピーカーを招く

1月まとめ。

2月予備

次回開催日

作業部会 7月9日（火）は中止

専門部会 7月23日（火）